

## 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	4570101636
法人名	医療法人 岡田整形外科
事業所名	グループホーム一喜一喜
所在地	宮崎市大字浮田3321番地 (電話) 0985-30-4841
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成20年8月27日

## 【情報提供票より】(平成20年8月15日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 6 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	7 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 7.25 人

## (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	A31,500 B28,500円	その他の経費(月額)	円
敷金	(有) ( 50,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,000 円			

## (4) 利用者の概要(8月15日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	0 名	要介護4	1 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	80 歳	最高	97 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	徳田内科、福澤歯科、岡田整形外科
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

宮崎市郊外に位置するホームは、閑静な住宅街に併せて田園が広がる環境にあり恵まれた場所に位置している。また法人併設の病院が近くにあり、理念にもあるように経営者の地域貢献への思いが、今日の地域住民の理解と協力を繋いでいる。地域の区長や民生委員は運営推進会議やホームの行事にも一緒に参加するなど、着実に地域の中での存在感が醸成されている。ホームと同一敷地内には、別ユニットのホームとデイサービスがあり、行事を一緒に楽しむなど交流が図られている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域とのつきあいでは、ホームの夏祭りなどの行事に多くの地域住民の参加が見られ、利用者が近隣の中学校の運動会を見学したり、ホームにも地域ボランティアが訪問するなど、地域交流がおこなわれている。また運営推進会議は、メンバーとして利用者代表、家族代表者や地域の区長、民生委員等の参加が毎回見られ、委員会では前回の外部評価の結果等についても報告されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価においても全職員で検討協議され、外部評価の意義についても理解できている。また昨年度の外部評価の結果についての協議や取り組みもなされている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月毎の運営推進会議は、メンバーとして利用者代表、家族代表者や地域の区長、民生委員等の参加が毎回見られる。また委員会の前にコンサートや避難訓練も委員参加のもと実施されている。委員会では前回の外部評価の結果等についての報告や、ホームの運営全般についての意見に対する協議もなされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族面会時には必ず近況を報告し、文書で毎月便りを送っている。また緊急性のある場合などは電話で連絡をとっている。預かり金管理は出納簿に記載し、毎月出納簿確認を家族にしてもらい、確認後の印鑑等をもらうようにしている。家族会を設けて家族からの意見を収集したり、意見箱を設置しているが、家族からの率直な意見や苦情を引き出すに至らないことが多くある。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの夏祭りでは多くの地域住民が参加し、地域とのふれあいができている。また近隣の中学校の運動会を見学したり、ホームにも地域ボランティアが訪問するなど、着実に地域性が醸成されている。災害訓練でも地域の消防団が参加する体制ができている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基本とし、ホームの理念、そしてケアの理念も掲げてあり、ホームの理念には地域性を盛り込んだ独自のものになっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員はミーティングで理念を確認し、職員会議等において理念を基本とした支援について協議している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの夏祭りでは多くの地域住民が参加し、地域とのふれあいができている。また近隣の中学校の運動会を見学したり、ホームにも地域ボランティアが訪問するなど、地域とのつき合いができている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価においても全職員で検討協議され、外部評価の意義についても理解できている。また昨年度の外部評価の結果についての協議や取り組みもなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎の運営推進会議は、メンバーとして利用者代表、家族代表者や地域の区長、民生委員等の参加が毎回見られる。また委員会の前にコンサートや避難訓練も委員参加のもとに実施されている。委員会では前回の外部評価の結果等についても議題として報告されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者や関係機関との連絡調整については、管理者と施設長が主におこなっており、確実に連携を図る体制ができている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時には必ず近況を報告し、文書で毎月便りを送っている。また緊急性のある場合などは電話で連絡をとっている。預かり金管理は出納簿に記載し、毎月家族に出納簿確認をしてもらい、確認後の印鑑等をもらうようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設けて家族からの意見を収集したり、意見箱を設置しているが、家族からの率直な意見や苦情を引き出すに至らないことが多い。	○	家族から意見が出しやすいように、また引き出しやすいような工夫ができるように期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動に際しては、利用者が混乱しないように密に引継ぎを行い、ダメージが少ない工夫ができている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員訓練マップでの教育や指導をおこない、特に新任職員の教育評価をおこなうなど、職員育成のための研修計画と実施ができている。また通常の内外研修も職員全員が参加できるようにしてある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県央ブロック連絡協議会への参加による同業者同士の研修会の参加もあり、連携もとれるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の入居による不安解消のために、併設の通所介護の利用からはじめたり、入居前に見学等をしてもらうなどの工夫がある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に利用者に寄り添うなかで、理念にある「尊厳」を重んじ、利用者の経験から学び取ることも多く、利用者とともに生活する実感を得ている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者参加の座談会を開催し、利用者の思いや意向を引き出しながら日々の支援に役立てている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成にあたって、担当者だけでなく全職員の意見を会議で出し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	アセスメントはセンター方式を活用し、プランも3か月ごとの見直しと、それに伴う介護計画の修正や継続がなされている。見直された計画は利用者と家族に説明され同意が得られている。		状態の変化のない場合にも月に1回は新鮮な目で見直す取り組みにつなげてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	他科受診等は原則家族の送迎や付き添いとしているが、やむを得ない場合にはホームが対応している。また地域高齢者等の緊急時の宿泊なども受け入れるための体制ができています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族の希望によりかかりつけ医は併設の医療機関となっており、緊急時の対応や診療等安心できる体制ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでに終末期の看取りの事例もあり、その指針も整備されている。職員全員が終末期に対するあり方についても話し合いがなされ、その方針も共有できている。また併設の医療機関との連携も図られている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の利用者に対する言葉かけは、かしこまらずに自然な会話ができおり、また寄り添いながら利用者の話に耳を傾けていた。利用者個人の台帳や書類などの管理も、目に付くところに置いておらず、事務所にきちんと保管されていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決して利用者に強制することなく、利用者のペースで時間が流れている。また職員はそのペースに合わせてながら、利用者の趣味活動など側面的な支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備ができる利用者は職員と一緒に語らいながら準備をして、食事の時には利用者と職員全員が同じテーブルを囲みながら同じ食事を食べ、そして語り合っている。またさりげない介助や目配りをしながら食事の時間を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴はホームの日課に沿っておこなわれているが、時間や回数に対する利用者のニーズが異なる場合には、個別に対応できる体制ができています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は洗濯物の係り、掃除の係り、食事の準備係など、利用者の個別性に配慮した役割がある。またレクリエーションなどにより日々の楽しみごとの支援もできている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩や、近隣の商店への買い物などの外出もできている。また計画的な行事としての季節的な外出や外食も実施されている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関やベランダには鍵をかけずに日々職員が目配りや気配りによる支援を行っている。		見守りが十分行えずやむを得ない場合にも、鍵をかけない工夫を日々お願いしたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の災害訓練には、地区区長や地域消防団の参加がある。また毎月ホーム内では独自の災害時対策のための研修等もおこなわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は併設医療機関の栄養士が作成しているが、利用者のニーズも取り入れてあり、利用者個別の食事形態にしてある。また食事や水分摂取量の個別チェック表も毎回記録してある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼くつろぎのための共有空間には、ゆったりとしたソファールがおり、利用者の談笑やテレビ観賞の場となっている。また茶室としての和室もあり、利用者が足を伸ばしてくつろげるスペースとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の個性ある占有空間になっており、趣味活動ができたり、プライバシーにも配慮されている。また利用者のお気に入りの物品も持ち込まれており、居心地よい居室づくりができている。		